

# 江戸っ子・朝比奈隆の冒険



15th Anniversary (2009-24)

ナカノシマ大学2024年12月講座



写真提供:大阪フィルハーモニー交響楽団(撮影:飯島隆)



上/ダンディな長身の、絵になる人。リーガロイヤルホテル大阪の「リーチバー」のカウンターがお気に入りだった 下/ペーターベン、ブラームス、ブルックナーを十八番とした

## 12/19(木) 18:00~19:40

会場 大阪府立中之島図書館(3階多目的スペース)

受講料 2,500円(小学生以下1,500円) 定員 100名

講師 岩野裕一(編集者・音楽ジャーナリスト/実業之日本社代表取締役社長)

主催 大阪府立中之島図書館(指定管理者ShoPro・長谷工・TRC共同事業体)

企画協力 ナカノシマ大学事務局(株式会社140B) 協力 公益社団法人大阪フィルハーモニー協会

### 威厳と謙虚さを兼ね備えた人柄で、「親分」「おっさん」と親しまれた大指揮者

カラヤンもバーンスタインも歴史に残る指揮者ですが、亡くなる93歳まで大阪フィルハーモニー交響楽団の音楽総監督・常任指揮者を務めた朝比奈隆(1908~2001)は、彼らとは違った意味で偉大な指揮者です。その心は「新しい土地(大阪)でオーケストラを立ち上げ、半世紀以上(現在も)継続し、楽団員が音楽で生活できるようにマネジメントした」こと。指揮台に立つと「みんな本気で音を出す」というカリスマでしたが、楽団の経営者としても並ぶ者のない偉業を成し遂げた東京人は、なぜ大阪を「生涯のホームグラウンド」にしたか。

講師は、人間味あふれる大指揮者の晩年を精力的に取材し、朝比奈隆に関するいくつかの著書もある、編集者で音楽ジャーナリストの岩野裕一さん。巨匠の意外なエピソードもお聞き逃しなく。

#### 〈講師からのメッセージ〉

今年2月に逝去した小澤征爾が「世界のオザワ」ならば、大阪フィルの創設者・朝比奈隆はさしずめ「日本の朝比奈」です。これは決して、日本が世界に劣るという意味ではありません。若き日にオーケストラの虜(とりこ)となり、それを根づかせる地に大阪を選んだ朝比奈は、西洋に追いつこうとするのではなく、日本人の「深さ」で勝負したのです。93歳で亡くなるまで生涯現役を貫いた朝比奈が、大阪に残したものは何か。一緒に見ていきましょう。

いわの・ゆういち 1964年東京生まれ。編集者・音楽ジャーナリスト。株式会社実業之日本社代表取締役社長。著書に、朝比奈の満洲時代を掘り起こした『王道楽土の交響楽 満洲一知られざる音楽史』(音楽之友社/第10回出光音楽賞受賞)、『朝比奈隆 すべては交響楽のために』(春秋社)などがある。自らファゴットも吹く。



講師の岩野裕一さん



会場では、岩野さんの著書「朝比奈隆 すべては交響楽のために(DVD付)」を販売いたします(春秋社・3,300円)

→受講申込は、こちらのQRコードからナカノシマ大学のWEBで受付します。

※次回は1月16日(木)18時予定……「焼酎と大阪、その意外な歴史(仮)」

講師=黒瀬暢子(焼酎プロデューサー/「黒瀬社氏」子孫)



# 大阪にオーケストラを!